





類題蕉翁發句集

秋の部目録

九月 今朝秋 初秋

來秋 殘暑 冷

身之入 稻妻 七夕

星合 銀河 硯洗

盆 墓參 魂祭

二百十日 扇置 角舩

露 霧 暴風

秋風 散柳 木槿

桐一葉 朝貝 蘭

秋海棠 女郎花 芭蕉

菽 菽 芒

角舩草 葛 鬼燈

草花 瓢 葱

蕃拵 綿 冬瓜

芋 蟲 蚤

竈馬 蜻蛉 蓑虫



行秋	橡	紅葉	御辻宮	後月	麩	渡鳥	縮州	松茸	粟	雁來紅	砧	十六夜	名月	落水	八朔	鶉
暮秋	橙	木の實	秋の露	名残月	麩	四十雀	落穂	茸狩	蕎麥花	芦	藥堀	月	今日月	三日月	夜寒	鳴
秋雜	柿	椋の實	菊	牛市	紅葉狩	鴈	稻雀	早稲	初茸	蜀黍	芙蓉	助迎	月見	下弦	秋暮	鹿

冬の部目録

霰酒	蒲團	埋火	火鉢	寒シ	雪九ヶ	雪	寒菊	枯尾花	大根	復花	散紅葉	夷講	口切	初冰	木枯	小春
乾麩	衾	頭巾	火桶	火燵	氷	雪見	枯野	冬牡丹	枯草	交蒔	落葉	御命講	神苗玉	冬龜	初霜	初時雨
河豚	鉢敲	紙衣	炭	圍炉裏	霰	山眠リ	霜	水仙	枯葱	蕎麥刈	木の葉	冬枯	神旅	炒閑	初雪	時雨

生海胤	鴨	千鳥
鷹	師走	寒
早咲	探梅	節季候
棋掃	餅搗	餅花
衣配	古曆	丰忘
丰取物	丰市	丰暮
行年	冬雜	無季

目錄終

類題蕉翁發句集卷二

古終舎黙池輯

秋の部

車はけそ

女月 又月や六りも冬の秋の秋  
今朝 けうぬ良菊さるけりは秋

明海 晴を

初秋 ちつ秋や海もき内の一こり  
秋海やたこさらの蛙の死

来秋 秋本さう再ふたつは枕の風  
あはれをさあをりや茶のほ

夕夕やうまのねあまのね

残暑 生初や小坂の三多うは秋暑か  
粟津の庵よは秋暑か

冷 ひやくと秋とてきては秋か

身入 秋さじやんて風はさる秋か

出る季下

指妻 心あつてもふもふは秋か

宿新かえ



よ〜時西の産

観洗 沢あ〜小智あ〜あ〜う〜せ〜津水

骸骨の鏡

盆 夕乃やも虫柳釘も柳まあれ

甲戌の縁大持こそ介し

とこのこの許より清良

と〜ん〜ま〜な〜ま〜あ〜ゆ〜

て〜ま〜ま〜と〜あ〜と〜て

暮春 乙密のほろ枝ふ〜舞の〜ま〜

魂奈 蓬池やね〜ら〜と〜ま〜魂奈

か〜ま〜の〜ま〜と〜と〜

徳坂う〜り〜り〜や〜川〜の〜流〜ま〜う〜

ま〜ま〜山

たま〜の〜り〜ま〜も〜津〜留〜の〜ら〜あ〜を

尾ま〜ち〜ら〜う〜ま〜ま〜う〜ら〜ら〜

と〜ま〜く〜

敷あ〜ぬ〜あ〜と〜か〜あ〜ひ〜と〜魂奈

出〜ま〜ら〜う〜四〜ま〜か〜わ〜ら〜ら〜ら〜

二尊 旅う〜ら〜二〜百〜十〜り〜と〜ね〜ま〜ら〜な〜

な〜ら〜ら〜う〜天〜花〜ち〜と〜あ〜ら〜ら〜

全仗のや枝とわ〜り〜

と〜と〜

扇置 とのぞて〜ら〜ひ〜さ〜ら〜く〜ら〜を

角鯨 角後や〜突〜と〜知〜淵〜の〜角〜力

む〜し〜ま〜け〜後〜文〜あ〜と〜角〜力〜あ

ほ〜あ〜う〜や〜魚〜

傍すの〜ひ〜つ〜も〜し〜も〜ふ〜某〜の〜合

芽中〜あ〜り〜産〜う〜て

露 ち〜あ〜と〜ら〜く〜こ〜ろ〜こ〜ろ〜産〜世〜ま〜ら〜や

と〜世〜産

西乃の〜ま〜産〜も〜か〜ま〜に〜ね〜ら〜つ〜日

そ〜ら〜は〜ふ〜わ〜ら〜

り〜や〜ら〜や〜虫〜付〜は〜ま〜ん〜ま〜の〜あ

ニ〜ら〜ん〜の〜う〜

ね〜う〜と〜ひ〜う〜の〜や〜ち〜ね〜ら〜ん〜の〜あ

二〜ま〜産〜の〜産〜上〜家〜と〜あ

と〜産〜

ゆ〜ま〜の〜い〜し〜と〜ま〜産〜く〜わ〜ら〜ら〜

ね〜ま〜産

霧 ね〜ま〜産〜や〜産〜ま〜ら〜ら〜と〜産〜

嵐は輪のまをくゆる雲を  
 ちかへたの地へまのあふ  
 土波地を拂て暮天を  
 ねん日月のくちあふ  
 と園をくちむうふあふ  
 妻ううてそまきまきま  
 侍人もあふそまきま  
 女人もまきまのあふ  
 とまきまのあふ  
 射の乃の神人まきま  
 侍まきまのあふ  
 せんり

暴風

重き方の狂風百重のうた  
 きつはあふまきまのあふ  
 暴風 狂もりのあふまきまのあふ  
 秋風 狂もりのあふまきまのあふ  
 狂風の中まきまのあふ  
 情けな

狂もりのあふまきまのあふ  
 情けな

秋風のこころふゆう秋の風  
 わき風やと敷もあふまきまのあふ  
 身がとて大木うし秋の風  
 一笑追まきま  
 懐もろく秋は愛のあふ  
 在中

赤いとりあふまきまのあふ  
 那あふまきまのあふ  
 不ふらふまきまのあふ  
 秋のあふまきまのあふ  
 中村とあふ

秋のあふまきまのあふ  
 秋のあふまきまのあふ  
 秋のあふまきまのあふ  
 秋のあふまきまのあふ  
 秋のあふまきまのあふ

秋のあふまきまのあふ  
 秋のあふまきまのあふ  
 秋のあふまきまのあふ  
 秋のあふまきまのあふ  
 秋のあふまきまのあふ

伊勢江の歌

あけうーあけうーけのそ

情ね会ふらん

秋香ふとねとれん葉の枝

水は流るるを思ふ

又送りけりるささけの風

柳陰おとて

散柳

あかぬさあはれも枝のたより

全留ちよて

庭掃てあかぬさあはれ柳

木撞

花も枝もささけのたより

馬上吟

ささけの枝もささけのたより

桐葉

よるいりてささけのたより

嵐雪よあつて

ささけの枝もささけのたより

当麻守よて

朝負

傍柳あつて死入るはらば

ねえのたよりけりてのたより

和具南無草堂り

よるいりてささけのたより

嵐雪よあつて

ねえのたよりけりてのたより

人々都がささけのたより

ささけの枝もささけのたより

閑園

あかぬさあはれも枝のたより

あかぬさあはれも枝のたより

蘭

有 蘭草 菊宜山

教かえもあつて

あかぬさあはれも枝のたより

あかぬさあはれも枝のたより

あかぬさあはれも枝のたより

あかぬさあはれも枝のたより

秋葉

あかぬさあはれも枝のたより

あかぬさあはれも枝のたより

女節花

あかぬさあはれも枝のたより

あかぬさあはれも枝のたより

いさか

あかぬさあはれも枝のたより



物の流

花の流るるは流るるなり

あはれ

昔は花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

物の流

花の流るるは流るるなり

あはれ

昔は花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

物の流

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

あはれ

花の流るるは流るるなり

葱

信願寺に於てあるの葱  
本寺の所の田舎より出て

談りの入るお針

蕃柿

道のたもとに種をまき  
かゝる柿は甘くはるかに

大なるものよりも赤くはるかに

まじりあつたのもつと柿

子郎の柿

綿

わたりの綿の種をまき  
あつた綿

お入る

冬瓜

冬瓜や冬瓜は秋の秋

特仙風

芋

芋は秋の秋の秋の秋

西の春

虫

虫は秋の秋の秋の秋

秋の秋の秋の秋の秋

秋の秋の秋の秋の秋

蚕

蚕は秋の秋の秋の秋

秋の秋の秋の秋の秋

秋の秋の秋の秋の秋

白髪ぬくまらぬ下やまきりぬ

さしやうやくまきりぬ

かかすのよおとくお老田の

秋社の家柄としてまき

うまかしく甲甲日

秋のきんまきりぬ

まきりぬ

おわい

むきあひ甲の下のまきりぬ

秋の麻もわかきりぬ

宝馬は土のあつたよほつたが

蜻蛉はつたよほつたが

まきの秋はつたが

のつたが

けりつたが

蚕

みのたれとてまきりぬ

田舎の秋

鶉

相乃あゝうづつたが

鶉の目せやうづつたが

田中のほつたが

鳴 刈あやつち福うくの階のこゑ  
鹿 ひじのや一寸やふあうのこゑ  
ひきうて牡鹿もよや牡鹿鳴  
ききうて

いいと鳴る鹿もあつちよき鹿  
名所八津のうら

八朔 八朔や天のちりまなちの  
曲幸する歌あそび

夜寒

乳節のちりまなちよきあ  
六脚あまの二人よきと  
度と清きてあつちあそび

きく

秋暮 いくふ里屋のちりやれの  
言の歌をいれては杖のこゑ  
あそびするあまはちあつちあそび  
あつちあそびあつちあそび

本因こり  
死もあ旅麻のよきあつちあそび  
涼川の庵

椋郎の尻をきき秋のこゑ

かき枝子福のさすうら杖のこゑ

きき自画像

ころもむけ杖もあつち杖のこゑ  
祈思

けろやい人あつちあつちあそび

あまのこゑあつちあつちあそび

落水 作市御座やよきあつちあそび

三月 三日月やあつちあつちあそび  
三月月やあつちあつちあそび

大層根成能屋よきあつちあそび  
あつちあつちあつちあそび

あつちあつちあつちあそび  
嵐景袖七日清き

下弦 乙ーやあつちあつちあそび  
二十日はあつちあつちあそび

あつちあつちあつちあそび  
の中あつちあつちあそび

あつちあつちあつちあそび  
あつちあつちあつちあそび

あつちあつちあつちあそび  
あつちあつちあつちあそび

とんこつ

名月 名月の物より五十一を宗

まこと名月の夜や奈白山

教が夜伯

名月や心よりより定あれた

名月やふらふらも新田月

名月

夏つて名月のあすこころを

名月や湖水よりふしふし

名月や心通あふまのふん

名月や鶴雁たつたを千原

名月や心と平架の教わじ

名月や我あありとる門は切

保川

名月や門と心とあはじの

伊賀山中平二

名月や心と心とてあはじ

名月と心と心とてあはじ

名月や心と心とてあはじ

名月や心と心とてあはじ

名月

名月と心と心とてあはじ

名月

今月 三井の心と心とてあはじ

名月と心と心とてあはじ

月見

名月と心と心とてあはじ

名月

名月と心と心とてあはじ

名月

名月と心と心とてあはじ

名月

名月

名月

名月

名月と心と心とてあはじ

名月と心と心とてあはじ

名月

名月と心と心とてあはじ

名月と心と心とてあはじ

月人思の思

思ふは思ふに思ふの思ふ

十夜

Sonnepoort van de Koning

思ふの思ふ

思ふは思ふに思ふの思ふ

思ふ十夜

思ふは思ふに思ふの思ふ

思ふは思ふに思ふの思ふ

思ふは思ふに思ふの思ふ

思ふは思ふに思ふの思ふ

思ふは思ふに思ふの思ふ

思ふは思ふに思ふの思ふ

月

思ふは思ふに思ふの思ふ

思ふは思ふに思ふの思ふ

思ふは思ふに思ふの思ふ

思ふは思ふに思ふの思ふ

思ふは思ふに思ふの思ふ

思ふは思ふに思ふの思ふ

思ふは思ふに思ふの思ふ

思ふは思ふに思ふの思ふ

思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ

馬の思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ

二十日月の思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ

思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ

思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ

思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ

思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ

思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ  
思ふは思ふに思ふの思ふ

湯の尾

月と夕陽の影を照らす  
燈籠

我仲の藤原のよき月也

之孫二年つづの優り

月と夕陽の影を照らす

法師の上人の古例と

きく

月清の影を照らす砂の上

後

月と夕陽の影を照らす

仲秋の夜露がまよき

ぬわりの相づらひの

海と陸の影を照らす

玉のちのあふく入て

とせの人の影を照らす

影を照らすの影を照らす

とまき

月と夕陽の影を照らす

斜山嶺真

夕陽の影を照らす

影を照らすの影を照らす

月と夕陽の影を照らす

そのまふ月もたのほし

伊勢の影を照らす

られつらぬ影を照らす

ふふひの影を照らす

やふとく影を照らす

とまき影を照らす

のまの影を照らす

こけの影を照らす

月と夕陽の影を照らす

作を照らす

月と夕陽の影を照らす

わつらぬ影を照らす

とまき影を照らす

月代や藤原の影を照らす

消る

水あつたて影を照らす

柴の影を照らす

あつたかたのうらみのせう  
 こころをさかすかにしるは  
 任はる情とあつてあつたの  
 こときりしうらみのせう  
 のせうにうらみのあつたは  
 しまつた情のあつたは

はるのうらみのあつたは  
 縁なき情

九月起て十月の七つり  
 ねは松風松加の情と削  
 けしつらなは水と相ま  
 と情は月の上とあつた  
 のせうにうらみのあつたは  
 と情はあつたはうらみの  
 海川の末あつたはうら  
 みのせうにうらみのあつたは

川上この川もや月の女  
 東吹を人遊よふまは  
 東吹を人遊よふまは  
 八月のうらみのあつたは

美世を懐く

今もあつたはうらみの月も十  
 月とあつたはうらみの月も  
 秋もあつたはうらみの月も

駒迎 秋もあつたはうらみの月も  
 砧 秋もあつたはうらみの月も

のせうにうらみのあつたは  
 上のせうにうらみのあつたは  
 利きうらみのあつたは

きりうらみのあつたは  
 後あつたはうらみのあつたは  
 うらみのあつたは

茶壺 けしつらなは水と相ま  
 遊女のあつたは

芙蓉 枝のりの日やしらべのさか

鷹 紅 けいとうやのすめめもあう

芦 ぶしとれちうとりのこりあ

蜀黍 蜀黍や新緑の二枚のころり入

粟 枝のすきまをまきまき

粟 雲のすきまをまきまき

粟 知りて月をまきまき

粟 ともかくと

粟 よれちやをまきまき

粟 江戸のすきまをまきまき

粟 活きと

蕎麥 花 三月の地をわらわら

初茸 三月の地をわらわら

松茸 松茸やわらわら

茸狩 茸狩やわらわら

茸狩 加加のあゝ入

早稲 早稲の香や入るる有様

人々

稲刈 稲刈のさか

落穂 落穂のさか

稲雀 稲雀のさか

渡鳥 渡鳥のさか

甲雀 甲雀のさか

鴈 鴈のさか

銚 銚のさか

鰻 鰻のさか

紅蓮 紅蓮のさか

仲秋 仲秋の月

後月 後月の月

石山 石山の月

多幾月 多幾月の月

後月 後月の月

石山 石山の月

多幾月 多幾月の月

後月 後月の月

石山 石山の月

多幾月 多幾月の月

後月 後月の月

石山 石山の月

多幾月 多幾月の月



井市 *Shimizu no Ichi*

*Shimizu no Ichi*

*Shimizu no Ichi*

市

*Shimizu no Ichi*

母の

秋箱

*Shimizu no Ichi*

三陽

菊

*Shimizu no Ichi*

*Shimizu no Ichi*

*Shimizu no Ichi*

*Shimizu no Ichi*

*Shimizu no Ichi*

*Shimizu no Ichi*

*Shimizu no Ichi*

*Shimizu no Ichi*

*Shimizu no Ichi*

*Shimizu no Ichi*

*Shimizu no Ichi*

*Shimizu no Ichi*

*Shimizu no Ichi*

世海の縁つゝ

山車浦陽の俗中軍人の

曰はば杖業三名海軍其

一は

二は

三は

四は

五は

六は

七は

八は

九は

十は

十一は

十二は

十三は

十四は

十五は

十六は

十七は

神皇八孫の中宮御孫

の御孫

藤原基経と吸き此経の

九月九日乙卯二指と推

考の御孫

藤原基経の御孫

藤原基経の御孫

藤原基経

藤原基経の御孫

藤原基経

藤原基経の御孫

藤原基経

藤原基経の御孫

藤原基経

藤原基経の御孫

藤原基経の御孫

藤原基経の御孫

藤原基経

藤原基経の御孫

藤原基経の御孫

藤原基経の御孫

藤原基経

藤原基経の御孫

藤原基経

藤原基経の御孫

藤原基経

藤原基経の御孫

藤原基経

藤原基経の御孫

藤原基経

藤原基経の御孫

藤原基経

藤原基経の御孫

藤原基経

藤原基経の御孫

藤原基経

藤原基経の御孫

藤原基経

藤原基経の御孫

幻燈弄りと栗田を来  
の二人

柿

葛籠と柿とくまきまの産  
まの柿や一日さうな様のつゝ

栗田栗田うたをう

征又と鞍とのみの産や柿とん

片母やぶら

行秋

里あつと柿の本の産あつと

ゆり柿や多あつとつゝ三布を

拾のうらとつゝわらわの産を

ゆり柿の産あつとつゝあつと

ゆり柿やあつとつゝあつと

清水の産あつとつゝあつと

暮秋

ねとつとつとつとつとつと

懐老杜

几帳とつとつとつとつとつと

秋雑

つとつとつとつとつとつと

るのりやあつとつとつとつと

清水の産あつとつとつとつと

清水の産あつとつとつとつと

秋十とせつとつとつとつと

と馬橋津前

このねの産あつとつとつとつと

田と水

あつとつとつとつとつとつと

苗別

つとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつと

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

冬之部

小春月の後よとふあとも月れ月

人の件ハ初てりて

初晴とらあれ初のさむ秋はあはれ

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ

あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ

あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ

あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ

木枯

あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ

竹

あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ

初霜

あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ  
あはれなる娘のうらみ

半 *Shōrin Kōrin*  
*Shōrin Kōrin*

初雪

とく雪や草花を散らす

とく雪や草花を散らす

とく雪や草花を散らす

とく雪や草花を散らす

とく雪や草花を散らす

とく雪や草花を散らす

とく雪や草花を散らす

とく雪や草花を散らす

とく雪や草花を散らす

初氷

初氷や井の凍りて

初氷や井の凍りて

初氷や井の凍りて

初氷や井の凍りて

初氷や井の凍りて

初氷や井の凍りて

初氷や井の凍りて

初氷や井の凍りて

贈酒堂

酒の味は

酒の味は

酒の味は

酒の味は

酒の味は

酒の味は

酒の味は

酒の味は

酒の味は

酒の味は

酒の味は

酒の味は

酒の味は

酒の味は

酒の味は

酒の味は

酒の味は

酒の味は

酒の味は

酒の味は

爐閑

爐閑

爐閑

口切

口切

神の 皇主 皇月の御尊

神の旅 都の御尊

夷講 皇月の御尊

御講 皇月の御尊

冬枯 皇月の御尊

散葉 皇月の御尊

皇月の御尊

皇月の御尊

皇月の御尊

皇月の御尊

皇月の御尊

皇月の御尊

皇月の御尊

落葉 百年の御尊

木葉 二尺の御尊

復花 三寸の御尊

來時 皇月の御尊

落葉 皇月の御尊

來時 皇月の御尊

落葉 皇月の御尊

來時 皇月の御尊

落葉 皇月の御尊

來時 皇月の御尊

落葉 皇月の御尊

來時 皇月の御尊

落葉 皇月の御尊

來時 皇月の御尊

大根 三十里尾張大根の産く郡  
尾の尻大根の産く郡

漬物

はよくとまなほしうと大根

大根引とつとつと

鶴とふふ小嶋とあや大根引

生庫の縁鏡してまき根

を解す日夫夫は法を

のふの大根とたあし

まの尻尾とつと

枯草 花はつらつとつとつと

鶴田とつと

枯葱 志のふふ入つて餅とつと

三枝とつとつとつと

唐ふつとつとつと

おつとつとつと

つとつと

枯花 志のふふ入つて餅とつと

兼名古とつと

冬牡丹 ふつとつとつと

鶴田挿入つとつと  
周とつとつと

水仙 水仙やつとつと

三つとつとつと

二人つとつと

寒菊 その白いつとつと

字つきや粉縁のつと

枯野 志のふふ入つて餅とつと

旅ふつとつと

霜 志のふふ入つて餅とつと

志のふふ入つて餅とつと

志のふふ入つて餅とつと

志のふふ入つて餅とつと

志のふふ入つて餅とつと

志のふふ入つて餅とつと

志のふふ入つて餅とつと

志のふふ入つて餅とつと

志のふふ入つて餅とつと

志のふふ入つて餅とつと



昔の深のまをきりうひこのまね

病中

くまのむくもよまねの松を那

深川大橋も松せし竹

まごやうらふて時節のしも

雪

耕月

雪をまふ上まの程やまま

あふ更らう惟子まらぬ致うぬ

甲まきとらうらまのけのたま

よまぢんた人のいこ

あぢしやまかせらぬまの行

まの結や烟管のあつらまのま

まのりやま松の胆威ふたま

清のまなまのやまうりた

ふこのま松原と園のま

ゆこの井も田作つてま

雪の朝ひらうと鞋とま

涙水くままはらま

庵まらうと

深川や松のま

抱月

市人うらま

社園ま

のま

まのま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

さし甘れて老の後志がみの  
里まうれ坊とあり今大  
津松本あり初月いふ  
志九の序ふるてはるを  
あつて思ふらつてありら  
まへら

おねの尾の物や志がみの香  
湖氷吐き

はら三上をほしわをほろの指  
大宮やはあゝいゝはた敷のま  
りぬかむし物と雪のあゝか

小町の虫燈  
さうやまゝあゝぬらゝのまを  
そあゝまゝよそゆ

本橋のゆりく枝やよりのま  
雪とみ梁なむむ位名う那  
竹の燈

ならんてみ雪はけのけしれが  
雪まの南の枝やよまゝ

雪目

夜ふかき雪目口天をふ雪をまらぬ

玄車の上の峰とあひひ  
曲て越人よあつら

二人らうし雪はを車とほらら  
いゝいゝゆらららららららら

山歌

山と橋渡りよいよまのあま

そらほらういはあま

そくうらふなやゝあて朝

あ甲ふあふたつとら我

喰ものいとおむけのほ

ねらうつゆとかりとあて

あつて思ふらつてありら

まゝかりとあゝまのあま

まゝかりとあゝまのあま

まゝかりとあゝまのあま

雪丸

雪丸が君火をうけし紅物をも雪丸け

沼川を夜のはか

氷

橋の雪を打て揚げる夜や隆

女舟を雪水

氷若く煙草う咽とる雪水

あまの踊をよて

霰

土のりやちよふと建ちぬは片  
 と泥露り霜もゆのふと入る  
 山の集の敷かたふ  
 一冬しこむるの葉のこわつる形  
 鶴もねる夜の氷の舞えそ那  
 のこまけりちりあつらんふのれ  
 ぶ山のいふたりるあまきか  
 自直月幾  
 いらあしれまやあれの梅もま  
 猪亦のちもまふと人けり  
 雲ととあふの雲をまき出え  
 と中人  
 冬一らぬあや相するまぢられ  
 氷のさかすか  
 深き池のこぼれや三弦のふと雲  
 再昔昔の屋を遠くこぼれ  
 何れゆやはものりもの方相  
 らんまきまきまきまきまき  
 雑水と深きまきまきのまき  
 地下のまきまき

寒サ

ねまをたつてよ秋あつる空  
 秋人こそ南風とて  
 ちりちりちりちりちりちり  
 とをねわあつる内とあつり  
 水もくも凍入のこころ結い  
 縁もやまふみみの新いもまき  
 塩の網のまきまきまきまきの  
 仙化つたのまきまき  
 神のまきまきまきまきまき  
 世あつちりちりちりちりちり  
 きりちりちりちりちりちり  
 けつちりちりちりちりちり  
 畑のまきまきまきまきまき  
 火のまきまきまきまきまき  
 火鉢 火のまきまきまきまきまき  
 火桶 火のまきまきまきまきまき  
 ちりちりちりちりちりちり

炭

中ゆきやちよふと建ちぬは片  
 土のりやちよふと建ちぬは片

白子みづの浦なりをのこ  
清くみづみづのまよりのみ

少年とどろきかへ人の對

埋火 埋火をとき田や風のまよるま

埋火の流波

埋火や埋火のまよりのまよ

自火を雨の機

頭巾 折るやよぬを雨のまよる

海川ハミウチ

米粟ふきまのまよるかやけ

紙衣 紙衣のまよるまよるまよる

浦團 浦團のまよるまよるまよる

会衣 会衣のまよるまよるまよる

会衣のまよるまよるまよる

鉢敲 鉢敲のまよるまよるまよる

鉢敲のまよるまよるまよる

乾鞋 乾鞋のまよるまよるまよる

乾鞋のまよるまよるまよる

汗服 汗服のまよるまよるまよる

汗服のまよるまよるまよる

生海用 生海用のまよるまよるまよる

生海用のまよるまよるまよる

鴨 鴨のまよるまよるまよる

鴨のまよるまよるまよる

千鳥 千鳥のまよるまよるまよる

千鳥のまよるまよるまよる

糸 糸のまよるまよるまよる

糸のまよるまよるまよる

糸 糸のまよるまよるまよる

糸のまよるまよるまよる

糸 糸のまよるまよるまよる

糸のまよるまよるまよる

糸 糸のまよるまよるまよる

糸のまよるまよるまよる

糸 糸のまよるまよるまよる

糸のまよるまよるまよる

糸 糸のまよるまよるまよる

糸のまよるまよるまよる

糸 糸のまよるまよるまよる

糸のまよるまよるまよる

糸 糸のまよるまよるまよる

糸のまよるまよるまよる

糸 糸のまよるまよるまよる

糸のまよるまよるまよる

早梅の園にさくら花の香

杜若の香はさくら花の香

鷹

なつらふさやうの香はさくら花の香

杜若の香はさくら花の香

ふさやうの香はさくら花の香

~~~~~

さくら花の香はさくら花の香

師走

月白の香はさくら花の香

十二月九日一井

縁起の香はさくら花の香

五百九の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

寒

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

棋掃

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

さくら花の香はさくら花の香

すし揚入のつるつるふらふら

餅搗 ちぢぢの三つりおし餅のちぢ

ちぢぢ餅と餅のむらばら

餅花 めぢぢ花やふらふらちぢちぢ

ちぢちぢ餅のちぢ

衣祝 ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

古曆 ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

幸忘 ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

洛のちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢ

年取 ちぢちぢの浦のちぢちぢちぢちぢ

年市 ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

年暮 ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

ちぢちぢちぢちぢちぢちぢちぢ

昨冬の果は初の中不  
 川あや父母の望をうりせ  
 こと多きあむしりもあは  
 ちふりのこあまこあて  
 古らや胸の法不は辛のくれ  
 監人よ遠くおひる辛のき  
 控のきりういあまこーのこま  
 分別のふらききり辛のき  
 長瀬

行年

ゆく辛やゆり秋の山ねうり  
 り辛や美さるる花の化  
 大正十の夜は監人よあひて

冬雑

梅千ふこあさあさあさ  
 ぶうて水吉ふらやあまは  
 而向一ききやあんあこのあ  
 一物さ清のまあああ  
 わるあふりあうらありあこのや  
 大色度まら園に在さる  
 名とあまあまきあふ  
 ままこえんとてなきてあう

こひてきこひてわあま  
 のまは清あかあま  
 りつあああつああま  
 こころあまあまあまのあま  
 武三郎

あまあまあまあまあま  
 こころあまあまあまあま  
 りつあああつああま  
 こころあまあまあまのあま  
 武三郎

母季

ちあかあまあまあまあま  
 朝さこふあまあまあま  
 海彼あまあまあま  
 月あまあまあまあま  
 石あまあまあまあま  
 三あまあまあまあま  
 ひあまあまあまあま  
 けあまあまあまあま

月たのほもまことのほも  
題なき

は能のじう梅つ梅のちり

瓶のほちのちり

のひのちり梅つ梅のちり

布衣のちり梅つ梅

のり手袋の中の月た

袖のちり梅つ梅

海つちり梅つ梅のちり

梅つちり梅つ梅のちり

張のちり梅つ梅

世のちり梅つ梅のちり

梅つちり梅つ梅のちり

かつちり梅つ梅のちり

幸のちり梅つ梅

張のちり梅つ梅のちり

梅つちり梅つ梅

こそ世のちり梅つ梅のちり

夫のちり梅つ梅

うのちり梅つ梅のちり

類

は良き雪

さき雪のちり梅つ梅のちり

石山秋月

ほやうぬ秋のちり梅つ梅のちり

休のちり梅つ梅

梅つちり梅つ梅のちり

中田のちり梅つ梅

名のちり梅つ梅のちり

三井のちり梅つ梅

雪つちり梅つ梅のちり

右のちり梅つ梅のちり

類題蕉翁發白集卷二平



七卷之内  
研譜